

## 地域連携活動デジタルアーカイブについて

笠井 恵里・谷 里佐

### 1. 全学的な地域連携活動の整理と管理

岐阜女子大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）では、「岐阜女子大学は、建学の精神「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、地域社会で主体的に活動できる人材を育成する。（以下略）」と地域社会で活動できる人材の育成を掲げている。また、これを受け、家政学部・文化創造学部の両学部のディプロマ・ポリシーでも、“地域で主体的に活動できる人材”の育成を掲げている。

一方、文部科学省では、平成 27 年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革の支援を行っている（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）。

こうした流れを受け、本学でも、学科専攻ごとに様々な地域連携活動を行ってきている。しかし、それらの地域連携活動は、各学科専攻での計画、実施であるため、どのような活動を行っているか、また、その過程で作られた資料の保管や利用はその学科専攻内にとどまり、大学内での共有化は困難であった。また、学生にとっても、自分の所属する学科専攻の活動についての理解はあっても、他学科専攻の活動については不透明であり、大学としてどのような地域連携活動、地域貢献をしているか、その結果、自分たちの学びにどのような影響もたらされているかを知る機会は少ない。

そこで、大学全体のデジタルアーカイブ教育研究の一環として、地域連携活動デジタルアーカイブを始めた。各学科専攻が地域と連携して行っている活動について、以下の観点で資料を取りまとめ、それらに独自に開発したメタデータ（二次情報）を付与し、映像や音声、文字情報などを一元的に管理し蓄積するシステムである i2D- ECM に独自メタデータを組み込んだ形で登録した。

なお、本研究は、私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」の支援を受けている。

### 地域連携活動デジタルアーカイブ 収集資料内容

- ①入力表データ
- ②写真
- ③活動の記録や資料
- ④連携先との協定書

### 2. フォルダ形式データベースへの登録

地域連携活動の資料には、前項の収集資料内容であげた通り、写真、活動の記録や資料などの文字データなど、様々な資料データが存在する。これらを各地域連携活動の内容ごとに、まとめて登録し、管理する必要がある。しかし、データベースに一点一点登録することは時間を要する。

さらに、デジタルアーカイブの観点からも、ある資料一点だけでなく、資料のまとまりで把握することが大切であり、撮影記録を行う際も、建物であればその東西南北からの様

子を撮り、祭であればその準備から撮ることが多いが、こうしたまとまりを崩さないよう管理することも必要である。そこで、各学科専攻の地域連携活動デジタルアーカイブとしては、各種資料データ（写真データなど）を一点一点登録するのではなく、フォルダごとの内容（カテゴリー）のまとまりで登録、管理することができるフォルダ形式のデータベースを用いている。また、メタデータの記述項目の中でも、「プロセス」と「結果」の記述に関しては、地域連携活動による資料が、地域の課題解決という側面と学生への教育利用という側面との2つの側面を持つことから、今後、下記のような記述内容を含んだ形で統一できるよう整理していきたいと考えている。

## ○ 地域連携活動デジタルアーカイブ「プロセス」と「結果」の記述

### 地域や企業との連携の場合

#### プロセス

（地域の課題解決の観点）

地域等からのこういうことをしたい、こんな効果を挙げたいという希望等の内容とそのためどうアプローチしたかを記す。

（学生教育の観点）

この活動をするために、学生にどんな学びをさせているか。授業名があれば授業名と内容を記す。

#### 結果

（地域の課題解決の観点）

この活動により、どのような点で地域等にとって成果が出ているか記す。

（学生教育の観点）

この活動により、専攻専修の所属学生にどんな成長がみられたか記す。特色に記した文章と重複しても良い。

### 学校関連の連携の場合

#### プロセス

（地域の課題解決の観点）

学校からのこういうことを学ばせてほしい等の希望やこういう形で授業をして欲しいという内容とそのためどういうアプローチをしたかを記す。

（学生教育の観点）

この活動をするために、学生にどんな学びをさせているか。授業名があれば授業名と内容を記す。

#### 結果

（地域の課題解決の観点）

学校での活動により、どのような点で学校や子どもに成果が出ているか記す。

（学生教育の観点）

この活動により、専攻専修の所属学生にどんな成長がみられたか記す。特色に記した文章と重複しても良い。

地域連携活動デジタルアーカイブ 生活科学専攻

1	事業名 (ふりがな)	山県市とのコラボレーション (やまがたしとのこらぼれーしょん)	テキスト情報
2	資料名 (ふりがな)	地域の伝統工芸を取り入れたワーキングウェアの提案 (ちいきのでんとうこうげいをとりいれたわーきんぐうえあのでいあん)	テキスト情報
3	作成者 (学科専攻)	児玉愛子 (生活科学専攻)	テキスト情報
4	内容分類	被服構成学, 染色加工学実験	テキスト情報
5	内容細目	デザイン, 被服製作, 染色加工	テキスト情報
6	実施年度	2016~2017年度	テキスト情報
7	連携先	伊自良大実連合会, 柿ZANMAI	テキスト情報
8	索引語 (キーワード)	伊自良大実柿, 柿渋染め, 山県市立図書館, こどもげんきハウス	テキスト情報
9	内容	生活科学研究会では伊自良地区特産の伊自良大実柿の柿渋染の商品開発など山県市とのコラボレーションに取り組んでいる。2017年度は山県市とのコラボレーションpart2ー地域の伝統工芸を取り入れたワーキングウェアの提案ーをテーマに、山県市立図書館とこどもげんきハウスの機能的なエプロンのデザイン考案・製作を行った。特に図書館のエプロンは柿渋染から行った。山県市の”くり祭り”とさぎ草祭で展示発表後、山県市立図書館とこどもげんきハウスに寄贈した。	テキスト情報
10	特色	研究会活動は学生が主体となって企画・実施をしており、実践活動を通して家政学・生活科学に関する知識と技術を深めている。また、学生同士の話し合い、学年を超えた縦の交流、地域連携や本研究会の活動の紹介・広報、教員と学生の親睦を深めるなどコミュニケーション能力養成上でも意義あるものとなっている。	テキスト情報/ リンク情報
11	提示種類	静止画, pdf	テキスト情報
12	関連資料		リンク情報
13	利用分野		テキスト情報
14	ファクトデータ		リンク情報
15	プロセス	2016年度は伊自良大実連合会のご協力を得て、伊自良大実柿の防腐テストを行った。柿渋を用いた作品を製作して、山県市の特産品への提案を行った。2017年度は山県市立図書館とこどもげんきハウスの機能的なエプロンのデザイン提案と製作を行い、それぞれに寄贈した。	リンク情報 (リンクから抽出)
16	結果	2年間山県市との伝統産業コラボレーションに取り組み、「伊自良大実柿の収穫から柿渋染など貴重な体験をすることができた。柿渋は媒染剤によって発色が異なることや、柿渋染した布は防腐効果があることがわかった。さらに地域の方が伝統産業を発展させようと努力されている姿に感銘を受けた。	リンク情報 (リンクから抽出)
17	記録媒体 (コレクション数)		テキスト情報
18	権利者 (連絡先)	柿ZANMAI (090-7225-9606)	テキスト情報
19	協力者 (連絡先)	山県市図書館 (0581-36-3339), こどもげんきハウス (0581-23-2323)	テキスト情報
20	許諾情報		テキスト情報
21	活用支援 (利用注意)		テキスト情報
22	登録日/登録者	2018. 12. 03/児玉愛子	テキスト情報

地域連携活動デジタルアーカイブ 住居学専攻

1 事業名 (ふりがな)	山県市空家等リノベーションデザイン提案事業 (やまがたしあきやとうりのべーしょんでざいんていあんじぎょう)	テキスト情報
2 資料名 (ふりがな)	山県市空家等リノベーションデザイン提案プロジェクト報告書 (やまがたしあきやとうりのべーしょんでざいんていあんぷろじえくとほうこくしょ)	テキスト情報
3 作成者 (学科専攻)	黒見敏丈 (生活科学科住居学専攻)	テキスト情報
4 内容分類	住居学	テキスト情報
5 内容細目	インテリアデザイン	テキスト情報
6 実施年度	2017年度	テキスト情報
7 連携先	山県市まちづくり企業支援課	テキスト情報
8 索引語 (キーワード)	空き家, リノベーション, デザイン	テキスト情報
9 内容	<p>本事業は、2016年度から実施している事業で、「山県市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標2 (みんなでいつまでも!) の若者の移住・定住施策に位置づけられており、国の地方創生加速化交付金事業の対象である「空家トリアージ発展加速化事業」の構成事業のひとつである。</p> <p>本年度も、昨年度の山県市空家等リノベーションデザイン提案の継続事業として、空家の貸し手の発掘 (子育て世代の移住、多世代居住)、貸し手にインセンティブを与える実績をつくるために、モデル改修空家をピックアップし、女子大生の視点からリノベーションデザイン案を山県市長以下市の関係者に対して提示したものである。</p>	テキスト情報
10 特色	<p>昨年度はピックアップした空き家のリノベーションデザインを提案しただけであったが、本年度は文化創造学部とも連携し、リノベーションデザイン案とともに、若い世代が目にする空き家情報紹介のためのポータルサイトのデザインについても提案している。</p>	テキスト情報 / リンク情報
11 提示種類	静止画, pdf	テキスト情報
12 関連資料		リンク情報
13 利用分野		テキスト情報
14 ファクトデータ		リンク情報
15 プロセス	<p>2016年度に引き続き、空き家の現地調査、採寸から実施することができ、ユニークなデザイン提案ができた。昨年度とは異なり、文化創造学部と協働で空き家情報のポータルサイトの改善提案も行うことができ、より学際的な活動となった。</p>	リンク情報 (リンクから抽出)
16 結果	<p>両学部の学生にとってお互いの活動や提案内容が刺激となって、提案内容も市から高い評価を得ることができた。</p>	リンク情報 (リンクから抽出)
17 記録媒体 (コレクション数)		テキスト情報
18 権利者 (連絡先)	山県市まちづくり企業支援課	テキスト情報
19 協力者 (連絡先)		テキスト情報
20 許諾情報	研究受託申込書	テキスト情報
21 活用支援 (利用注意)		テキスト情報
22 登録日 / 登録者	2018. 12. 09 / 黒見敏丈	テキスト情報

1	事業名（ふりがな）	地域食材を活かしたレシピ創作コラボレーション事業 （ちいきそざいをいかしたれしびそうさくこらぼれーしょんじぎょう）	テキスト情報
2	資料名（ふりがな）	美濃にわか茶屋開駅10周年記念菓子の提案 （みのにわかちややかはいえき10しゅううねんきねんかしのていあん）	テキスト情報
3	作成者（学科専攻）	笠井恵里（健康栄養学科）	テキスト情報
4	内容分類	調理学	テキスト情報
5	内容細目	調理加工	テキスト情報
6	実施年度	2017年度	テキスト情報
7	連携先	株式会社美濃にわか茶屋	テキスト情報
8	索引語（キーワード）	調理特性、食品加工、品質と標準化、地産地消、地域づくり	テキスト情報
9	内容	<p>本事業は、2012年度から実施している。本年度は、開駅10周年を迎える道の駅美濃にわか茶屋より、記念式典で配布する記念品として紅白の菓子の提案依頼を受けた。紅白を表現するために美濃市の特産品である「仙寿菜」を用いた。「仙寿菜」とは、鮮やかな赤紫色の葉を特徴とした野菜であり、栽培地域や期間が限定されていること、加熱調理により色素の流出及び退色がみられることから、利用の幅が限られている。この仙寿菜の葉の色を生かした商品を提案し、仙寿菜の知名度を向上させるとともに、新たな利用方法を提案することで地産地消につながるのではないかと考え、提案を行った。仙寿菜は、加熱調理により退色が見られるため、既知の報告を参考に試作を重ねた。道の駅関係者、業者とのやりとりを重ね、3種類の菓子を完成させた。菓子の提案だけでなく、菓子の特徴を伝えるためのしおりや、菓子の包装に付ける帯の作成にも取り組んだ。</p>	テキスト情報
10	特色	<p>仙寿菜は、加熱調理により退色が見られたが、既知の報告を参考に調理の特性を考慮し、試作を重ねた。その結果、仙寿菜の葉の鮮やかな色を活かした「マカロン」、「琥珀糖」、「あん豆腐」の3種類の菓子を完成させることができた。9月8日の開駅10周年記念式典で関係者に配布された。</p>	テキスト情報／ リンク情報
11	提示種類	静止画、pdf	テキスト情報
12	関連資料		リンク情報
13	利用分野		テキスト情報
14	ファクトデータ		リンク情報
15	プロセス	<p>仙寿菜の葉の鮮やかな色を活かした菓子として、「くず饅頭」「鯛の形の最中」、「美濃市のマークを模った琥珀糖」、「紅白のどら焼き」を試作し、提案した。くず饅頭は、常温保存できない、最中、琥珀糖、どら焼きは、生産性の指摘を受けた。保存性、生産性（菓子屋が大量生産できるか）を考慮し、試作・改善を繰り返した。</p>	リンク情報 (リンクから抽出)
16	結果	<p>道の駅関係者、業者とのやりとりを重ね、仙寿菜の葉の鮮やかな色を活かした「マカロン」、「美濃市の花（梅）を模った琥珀糖」、「あん豆腐」の3種類の菓子を完成させることができた。</p>	リンク情報 (リンクから抽出)
17	記録媒体（コレクション数）		テキスト情報
18	権利者（連絡先）	株式会社美濃にわか茶屋（0575-33-5022）	テキスト情報
19	協力者（連絡先）		テキスト情報
20	許諾情報	研究受託申込書	テキスト情報
21	活用支援（利用注意）		テキスト情報
22	登録日／登録者	2018.08.31/笠井恵里	テキスト情報

地域連携活動デジタルアーカイブ 書道国語専修

1	事業名（ふりがな）	岐阜市立三輪南小学校での書写授業 (ぎふしりつみわみなみしょうがっこうでのしよしゃじゅぎょう)	テキスト情報
2	資料名（ふりがな）	書写授業プリント（しよしゃじゅぎょうぷりんと）	テキスト情報
3	作成者（学科専攻）	山川結加（文化創造学専攻）	テキスト情報
4	内容分類	書写	テキスト情報
5	内容細目	書写教育	テキスト情報
6	実施年度	2018年度	テキスト情報
7	連携先	岐阜市立三輪南小学校	テキスト情報
8	索引語（キーワード）	書写, 書写教育	テキスト情報
9	内容	本事業は、2014年度から実施している。三輪南小学校から本学に書写授業補助の要請があり始まった。今年度は、毎週木曜日本学Ⅳ限2年生の「書写教育」時に、学生10人前後が三輪南小学校へ訪問し、3人1組のチームが3～4クラスそれぞれに配属されて、「書写」授業実習をしている。	テキスト情報
10	特色	事業開始時は、机間指導や添削指導として授業補助に入っていたが、今では学生が主となり授業を進行している。小・中学校教諭になるための必須授業の「書写教育」。その教育内容を理解し、書写書道に必要な技術・知識の修得を目指し、実際の現場での指導方法を考え、子ども達に文字文化の楽しさや大切さを教えられるように学んでいる。	テキスト情報/ リンク情報
11	提示種類	静止画, pdf	テキスト情報
12	関連資料		リンク情報
13	利用分野		テキスト情報
14	ファクトデータ		リンク情報
15	プロセス		リンク情報
16	結果		リンク情報
17	記録媒体（コレクション数）		テキスト情報
18	権利者（連絡先）		テキスト情報
19	協力者（連絡先）	岐阜市立三輪南小学校(058-229-1013)	テキスト情報
20	許諾情報		テキスト情報
21	活用支援（利用注意）		テキスト情報
22	登録日／登録者	2018.12.07/山川結加	テキスト情報

地域連携活動デジタルアーカイブ 観光専修

1	事業名（ふりがな）	岐阜女子大学×長良川鉄道コラボ商品企画（ぎふじょしだいがく×ながらがわてつどうこらぼしょうひんきかく）	テキスト情報
2	資料名（ふりがな）	岐阜女子大学×長良川鉄道コラボ商品設定案（ぎふじょしだいがく×ながらがわてつどうこらぼしょうひんせっていあん）	テキスト情報
3	作成者（学科専攻）	吉水淑雄（観光専修），瀬戸敦子（観光専修）	テキスト情報
4	内容分類	観光学	テキスト情報
5	内容細目	地域活性化	テキスト情報
6	実施年度	2018年度	テキスト情報
7	連携先	長良川鉄道株式会社	テキスト情報
8	索引語（キーワード）	地域活性化，地域づくり，観光列車	テキスト情報
9	内容	本事業は、2018年度より実施している。連携先の長良川鉄道株式会社は2018年度観光列車「ながら3号：川風号」を新たに導入し、長良川沿線上を走る観光列車として活躍が期待されている。計3車ある観光列車の有効活用、沿線地域の活性化をキーワードに、学生主体で観光ツアープランを企画した。企画前には2018年6月30日には学生による観光列車乗車体験を行った。各学生による企画案の中から長良川鉄道により選ばれた企画を基に、本格的に始動するのは2019年度からである。「地元の人びとに愛される長良川鉄道」であり続けるために、お花見トレインを長期活動の柱とし、単発的にイベント、ツアーを企画運営する。	テキスト情報
10	特色	依頼のあった長良川鉄道、本学の観光専修学生、沿線地域の郡上市、関市などの市町村と連携をし、学生・女性目線の新しい企画を学生主体で発信する。若者中心に情報発信元となっているSNSを有効活用し、プロモーション活動にも力を注いでいく。	テキスト情報／リンク情報
11	提示種類	静止画，pdf	テキスト情報
12	関連資料		リンク情報
13	利用分野		テキスト情報
14	ファクトデータ		リンク情報
15	プロセス	(地域の課題解決の観点) 現在電車、バスをはじめ地方交通は経営難に陥っているケースが多い。長良川鉄道株式会社も同様で、利用者の増加に向け様々な取り組みを行っている。しかしながら、現状は厳しい。そこで、学生・女性の目線から新たな観光イベントを企画し、利用者増加を目指したいとの希望があった。 (学生教育の観点) 学内での講義だけではなく、実際に地域の人々・企業スタッフと関わりながら、将来「地域で活躍する人」になるため実践力と行動力を学ぶ。授業は、「イベントプランニング」である。	リンク情報 (リンクから抽出)
16	結果	(地域の課題解決の観点) 長良川鉄道沿線付近の人々にとっては生活の足である。しかし、利用率は年々下がり続けているのが現状だ。今回本学とのコラボ企画の一つのきっかけとして、地域の人々に長良川鉄道の知名度アップ、そして企画への参加協力を具体的な成果と考えている。 (学生教育の観点) 今年度からのプロジェクトであり、具体的な結果は出ていない。しかしながら、これまでに自らの考えたツアープランやイベントプランを長良川鉄道の担当職員にプレゼンテーションをし良い評価を得た。学内だけのプレゼンテーションだけでなく企業に向け自らの考えを発表出来たことは、学生らにとって自信がついたと考えられる。	リンク情報 (リンクから抽出)
17	記録媒体（コレクション数）		テキスト情報
18	権利者（連絡先）	岐阜女子大学 文化創造学部文化創造学科観光専修	テキスト情報
19	協力者（連絡先）		テキスト情報
20	許諾情報		テキスト情報
21	活用支援（利用注意）		テキスト情報
22	登録日／登録者	2018.12.10/吉水淑雄，瀬戸敦子	テキスト情報

地域連携活動デジタルアーカイブ デジタルアーカイブ専攻

1	事業名（ふりがな）	私立大学研究ブランディング事業 （しりつだいがくけんきゅうぶらんでいんぐじぎょう）	テキスト情報
2	資料名（ふりがな）	飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ （ひだたかやまたくみのわざデジタルアーカイブ）	テキスト情報
3	作成者（学科専攻）	久世均（デジタルアーカイブ専攻）	テキスト情報
4	内容分類	地域文化資料	テキスト情報
5	内容細目	伝統文化	テキスト情報
6	実施年度	平成28年度～	テキスト情報
7	連携先	高山市	テキスト情報
8	索引語（キーワード）	無形文化財、伝統技術、保存活動、工芸、木工家具	テキスト情報
9	内容	飛騨高山匠の技の歴史は古く、古代の律令制度下では、匠丁（木工技術者）として徴用され、多くの神社仏閣の建立に関わり、平城京・平安京の造営においても活躍したと伝えられている。しかし、現在の匠の技術や製品についても、これら伝統文化産業における後継者の問題や海外への展開、地域アイデンティティの復活など匠の技を取り巻く解が見えない課題が山積している。 本研究では、知識基盤社会におけるデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により、これらの地域課題に実践的な解決方法を確立するために、「知的創造サイクル」をデジタルアーカイブに活用して飛騨高山の匠の技に関する総合的な地域文化の創造を進める。	テキスト情報
10	特色	知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという岐阜女子大学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をしている。このことにより、地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに新たな観光資源の発掘を行うことができる。	テキスト情報／ リンク情報
11	提示種類	静止画、pdf	テキスト情報
12	関連資料	<a href="http://digitalarchiveproject.jp/">http://digitalarchiveproject.jp/</a>	リンク情報
13	利用分野	デジタルアーカイブ、教育、教材開発、地域活性化	テキスト情報
14	ファクトデータ	<a href="http://digitalarchiveproject.jp/">http://digitalarchiveproject.jp/</a>	リンク情報
15	プロセス	（地域の課題解決の観点） ・本事業は、フィールドにおける効果検証をするためのデジタルアーカイブ研究として捉え、解の見えない地域課題の解決をするための地域資源デジタルアーカイブの開発とそのメソッドを確立することである。 ・そこで、デジタルアーカイブin高山を学生主体で開催し、そこで、のアンケートにより地域の課題を抽出している。 （学生教育の観点） ・実践的なデジタルアーキビストを養成するために、地域のフィールドに直接出向き、デジタルアーカイブを行うと共に、メタ情報やデータベースの構築、Webの作成を行う。 ・また、学生自らアンケートを作成し、その分析を行う中で、分析・評価の学修を行う。 ・その結果として、地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し、地域で新たな価値を創造できる人材の養成を行うことが可能になる。	リンク情報 （リンクから抽出）
16	結果	（地域の課題解決の観点） ・この活動により、郡上市「白山ユネスコエコパーク」学術研究の補助金に申請し、採択された。また、デジタルアーカイブin高山を開催し、地域の方々（100名）の参加を得て開催した。 （学生教育の観点） ・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の地域連携・産学連携部会「学生による地域課題解決提案事業」に採択され、成果報告会にて学生が報告している。	リンク情報 （リンクから抽出）
17	記録媒体（コレクション数）	静止画（18,489枚：10月現在）	テキスト情報
18	権利者（連絡先）	岐阜女子大学（久世均：058-214-9341）	テキスト情報
19	協力者（連絡先）		テキスト情報
20	許諾情報	著作権については今後許諾を取る予定	テキスト情報
21	活用支援（利用注意）		テキスト情報
22	登録日／登録者	2018.11.07	テキスト情報



地域連携活動デジタルアーカイブ 初等教育学専攻

1	事業名（ふりがな）	教育実践力育成EGGプラン （きょういくじっせんりょくいくせい えっくぶらん）	テキスト情報
2	資料名（ふりがな）	遠地体験学習（えんちたいけんがくしゅう）	テキスト情報
3	作成者（学科専攻）	菊池真也	テキスト情報
4	内容分類	社会科学	テキスト情報
5	内容細目	教育学	テキスト情報
6	実施年度	2018年度	テキスト情報
7	連携先	高山市教育研究所並びに白川村	テキスト情報
8	索引語（キーワード）	学校教育, 学習指導論, 教育方法, 教育評価, 教育実践力	テキスト情報
9	内容	初等教育学専攻では、「教育実践力ある教員」の養成を目指した、実践型の教員養成「EGG（Enjoy Global Growing up）プラン」を設けている。本プランの目的は、学生が社会と協働で模擬授業や教材研究等を行うことで、教育実践の場に根ざした実践知が伝承され、共に創造するシステムを構築し、教職志望学生の力量向上を目指すものである。また、学生が1年次から学校および保育の場で継続した体験活動を積み重ね、大学で学んだ理論と照らし合わせ「実践と理論の往還」を図ることにより、理論と実践の融合を図っていく。実践知の伝承と創造とを兼ね備えた教育プログラムである。 その一環として2009年度より「遠地体験学習」を実施している。2018年度は、本専攻4年生が白川村立白川郷学園と高山市立宮小学校にて授業参観、並びに授業（活動）実践、学校行事（運動会）支援を実施した。それらの活動を通して、授業を行う力、観察する力を育成するとともに、学校行事と地域の中に根ざした学校への理解を深めた。	テキスト情報
10	特色	連携校との協力による、より深い実践での学びができる。 白川村立白川郷学園という世界遺産の村の学校、義務教育学校という特色ある学校での学びをすることにより、地域の特徴を活かした教育を身を持って学ぶことができる。 高山市立宮小学校も同市立宮中学校との小中一貫教育を行っており、9年間一貫した教育、さらには、保育園との連携にも取り組む12年間を見通した教育を行っており、それらを身を持って学ぶことができる。	テキスト情報/ リンク情報
11	提示種類	静止画, pdf	テキスト情報
12	関連資料	岐阜女子大学と高山市教育研究所との連携協力に関する協定書 白川村との包括連携協定書	リンク情報
13	利用分野		テキスト情報
14	ファクトデータ		リンク情報
15	プロセス	（地域の課題解決の観点） 学校より学生が行う活動は、児童生徒との心的距離を縮めるような、そして知らなかったことを発見できるような活動の希望があったり、学校の児童生徒・教職員や地域と一体となって行う行事に対して、その場に参加し、様子を感じ・知ってほしいとの希望があったりした。その為、活動の準備に際しては、児童生徒共に行えること、学生の出身地などの情報を活動の中に仕込むなど工夫した。また、学校行事の運動会に参加し、教員の補助や児童の支援を行うこととした。 （学生教育の観点） 学生は、これまでの体験学習並びに教育実習の集大成としての学びの場となると共に、大学院早期履修科目「教育実践特講」の授業としても位置づいている。これまでの体験・実践の集大成として、児童に対して活動を行うことを事前に準備し、実施したり、児童の学習・活動支援を行っている。さらに大学院科目として、「授業をみる」という方法を体験的に学ぶ場となっている。	リンク情報 （リンクから抽出）
16	結果	（地域の課題解決の観点） 今回遠地体験学習を行った白川村と高山市宮地域の児童生徒は、他地域との直接的な交流の少ない児童生徒である。そのような児童生徒にとって、他地域から来た学生、しかも他県の出身者のいる学生から、その学生たちの地元のことなどを活動を通して知ることができ、視野を広げる一つの機会となった。 （学生教育の観点） これまで行ってきた体験学習や教育実習の集大成として、短い活動時間の中でも、児童の心を掴み、かつ学びある活動を行う授業力を身につけることができた。授業を参観することにより「授業をみる」力を深めることもできた。さらには、義務教育9年間を通じた学びを学校の説明を聞いたり、実際に活動に参加したりすることを通して、身をもって知ることができた。	リンク情報 （リンクから抽出）
17	記録媒体（コレクション数）		テキスト情報
18	権利者（連絡先）		テキスト情報
19	協力者（連絡先）		テキスト情報
20	許諾情報		テキスト情報
21	活用支援（利用注意）		テキスト情報
22	登録日／登録者	2018.12.13/齋藤陽子	テキスト情報